

男女共同参画推進室全体会議の開催

7月10日（金）「男女共同参画推進室全体会議」をオンライン形式で開催しました。出席者は30名で、今年度の事業計画について説明後、内布室長が、現時点での本学の女性教員の在籍、採用、昇進データの解説をしました。その後、新型コロナウイルス感染拡大により、オンライン形式で実施したセミナーやキャリアカフェの報告と今後の課題について検討しました。その他、男性の育休取得や女性教員の在籍比率の増加などについても議論がありました。

本部の取組（7月31日現在）

保育支援

○延長・預かり保育支援

支援対象となった時点で申請可

○休日・病児病後児保育支援

利用した月の翌月5日までに申請

○ベビーシッター利用補助

随時受付中！

大学が認めた在宅勤務の場合も使用可能

女性研究者研究活動助成金

女性研究者の上位職登用の促進及び国際的な活躍を目的とし、研究費を助成

昨年度 採択者10名のうち4名が昇進

日経ウーマノミクス

2020バーチャルシンポジウム「輝け未来予想図」

本事業は、日本経済新聞社が関西に拠点を持つ産業界・経済団体・大学などが連携して、理系女性の裾野拡大を目指すもので、8月～12月に実施。

プレゼンテーションコンテンツには、本学の物質理学研究科天文分野（伊藤研究室）から、山下真衣さん、川上碧さんが参加。

また、工学研究科古賀准教授他本学の女性研究者の紹介予定。10月下旬～11月には、日本経済新聞本紙にて採録。



“兵庫県立大学 理系の世界的な冒険”

兵庫県立大学 工学研究科 准教授 古賀 麻由子



SF 作品に登場する夢のエネルギー源、核融合をこぞ目指す。いま研究者の最先端の努力により商業のものとなりつつあります。核融合発電は海水をもとに大きなエネルギーを生み出すことができるため、エネルギー問題を一気に解決すると期待されています。私は核融合研究者の一人として、燃料ターボシステムやプラズマ制御装置の開発を行っています。夢が現実となる道程に携わりたいと考えています。サイエンスでワクワクする体感です。是非学生の皆さんも理系の世界で知的な冒険を存分に楽しんで欲しいと思います。



各キャンパスの取り組み（7月31日現在）

姫路工学C分室主催

オンラインキャリアカフェ



第1回 6月2日（火）12:00～13:00
参加者 20名（学生12名、教員4名、職員4名）

第2回 6月26日（金）12:10～12:45
参加者 10名（学生5名、教員2名、職員3名）

新型コロナウイルス感染拡大を踏まえ、例年対面で実施しているキャリアカフェをオンラインで実施した。

今回は、入学したものの登校できず、オンライン授業を受けている女子新入生を対象とした。女性教員と直接話ができることから、2回とも参加した学生もいた。

一方、対面のキャリアカフェを望む声も多く、実施方法の工夫を検討している。

明石看護C分室主催

WEBセミナー

「私の男女共同参画とSystematic Review」

日時 7月21日（水）13:00～14:30

講師 山川みやえ氏

（NPO法人JCEBP理事長・大阪大学大学院准授）

参加者 40名

前半は、山川氏の経験をもとに地域共生という視点からの男女共同参画についての講演が行われた。

後半は、看護実践のためのシステマチックレビューに関する講義が行われた。

図書館に女性研究者支援コーナー設置(7月～)

上記のセミナー講師の著書展示と貸し出しを期間限定で行うとともに、看護学部の女性研究者の論文を数点展示している。





それぞれの ステイホーム

新型コロナウイルス感染拡大を鑑みて、在宅勤務、オンラインを活用した授業や会議等が実施されています。

教職員の業務環境、学生の学習環境が大きく変化したなか、約3か月が過ぎ、それぞれの立場でどんなことを感じられているのでしょうか？

教員

オンライン授業と対面授業、それぞれのメリットを実感。双方向授業の教育効果はオンライン授業の方が優れている面も。若者は新しい技術への対応力が素晴らしく、快適に充実した自粛生活を送る学生から多くを学びました。
(教員 女性)

「当たり前」の日常が刻々と「当たり前じゃない」ものになる日々に諸行無常を感じつつ、だからこそその発見も多い日々でした。「教科書を疑え」とはノーベル賞受賞者の本庶佑先生の言葉ですが、「そもそも、『当たり前』って何だっけ？」と問うていく姿勢がますます必要になると感じています。
(教員 女性)

普段から室内でストレッチを行うことを習慣としていますが、在宅時間が長くなると、つい自分の限界がどこまでか試してみたくなり、いつも以上に頑張った結果、足の筋を軽く痛めてしまいました。恐るべしコロナウイルスです。
(教員 男性)

In my office, we had a chance to work from home two days a week. We have noticed that such a set-up was perfect, as some tasks require devoted attention that can be given while working from home, while others need active collaboration and are carried out more easily from the office-setting. I think that this has shown that, in the future, we can be more flexible and allow the staff to work from home depending on their circumstances and the type of tasks that they need to complete. Using online tools as an institution has become much easier as well, so I am looking forward to the innovations that university will come up while building on the knowledge that has been accumulated. (教員 女性)

緊急事態宣言中は保育所も一定期間登園自粛したため、日中は子供の面倒や食事作り、早朝や夜からなど、子供の就寝中に仕事をしており、途中から肩こりや頭痛がひどくなった。大学の休業要請により実験も制限されたため、任期付職の身としては将来への不安からとてもストレスを感じた。(教員 女性)

2歳男児が満面の笑みで仕事エリア突入、キーボード連打、資料クシャクシャ。こちらは身を挺して防衛専念。そのうち育休中の奥さんが確保連行。育児、在宅勤務を1人でこなしている方々は凄いなとヒシヒシと感じました。
(職員 男性)

乗車時間は5分である。短時間ではあるが、感染のリスクが軽減できたことはプラスだと考える。しかし、在宅勤務での業務は限られるため、業務は滞り、出勤日は必然的に残業である。在宅勤務の環境が整っていない状況ではマイナスが勝(まさ)った(職員 女性)

職員



電話や問い合わせで中断されることも無く集中できるので、書類作成等の事務作業は驚くほど捗りました。ZOOMでのミーティングは苦手ですが、週1~2回の自宅勤務がベストな働き方だと思います。(職員 女性)

大学院生



COVID-19 has spread over the world in this year. Of course, it affects in all aspects such as economic, travel, communication in our daily life so that quarantine is needed to be forced people for preventing the infection. For work from home as the new normal behavior, there are a lot of effects on my work because I am doing the research that it is needed to be done measurement and using instruments in the laboratory. Once I could not go to the laboratory, I also could not do anything on my measurement. However, it does not mean that I can not do anything on my research. I can pay more attention to prepare the manuscript and review some publication relating on my work that, honestly, I could spend more time for studying on review papers having a lot of knowledge that has advantages on my work.
(留学生(博士課程) 女性)

自粛中、実験が全くできず、研究がほとんど進まなかったため、毎日とても不安でした。一方で、自由時間が増えたため、睡眠時間や趣味の時間を普段より確保できた点はよかったです。(学生 女性)

The Covid-19 pandemic has changed the way we live. We have started a new life style. Everything is closed. We have to work from home instead of going to the university. At the first time, I felt that I cannot adapt to this situation. I was always distracted and cannot focus on working. However, I received some advice from my teacher and my friends, they recommended that I should regularly talk to my family and friends by using the internet to avoid negative feelings. Addition, I should follow a daily schedule which help me know when I do something in effective way. All these things helped me get better. However, I hope the Covid-19 pandemic will end soon to bring normal life back. (留学生(博士課程) 女性)